

上田市教育委員会 3 月定例会会議録

1 日 時

平成 2 4 年 3 月 2 3 日 (金)

午後 3 時 3 0 分から午後 5 時 2 8 分まで

2 場 所

上田市教育委員会 (やぐら下庁舎) 2 階会議室

3 出席者

委 員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	金子 泰子
委 員	城下 敦子
委 員	小市 正輝
教 育 長	小山 壽一

説 明 員

小市教育次長、廣川教育参事、小野塚教育総務課長、中村学校教育課長、浅野生涯学習課長、小山人権同和教育政策幹、土屋文化振興課長、佐藤体育課長、下村丸子地域教育事務所長、藤沢真田地域教育事務所長、掛川武石地域教育事務所長、倉島第一学校給食センター所長、横尾第二学校給食センター、大滝上田図書館長、足立中央公民館長、山崎城南公民館長、綿内川西公民館長、林博物館長

・ あいさつ

< 協議事項 >

(1) 教育委員会事務局組織改正及び組織規則の一部改正について

資料 1 により小野塚教育総務課長説明

西田委員長

「体育」を「スポーツ」という言葉を言い換えるのはなぜか。

小野塚教育総務課長

地域や行政の中でも、スポーツという言葉が浸透してきたと判断した。

全委員 了承

(2) 目標管理及び教育行政評価について

資料 2 により小野塚教育総務課長説明

城下委員

例年は年度が終了した後に自己評価をしてきたが、今回はどのタイミングで自己評価をしたのか。

小野塚教育総務課長

年度末の 2 月から 3 月にかけて評価した。内容としては、最終的な数値を求められる部分もあるため、今後若干変わることもありうる。

金子委員

P D C A のサイクルで行われており、また、時期的にも大変よくありがたい。

ただし、P D C A の A は次の P につながるものであり、C のチェックをもとにして A ができていく。今回の場合、チェックがまだ甘くて抽象的な表現にとどまっている。数字や固有名詞を出してきちんとチェックしてあれば、次の計画がよりスムーズに立てられると思われることが残念である。

城下委員

昨年は 5 段階で点数化して評価したが、今回は点数化ではないのか。

小野塚教育総務課長

P D C A のサイクルの中、市が行っている目標管理制度に合わせて4段階とした。目標管理と同様に点数化はしておらず、感覚的な判断のものもある。

城下委員

結果報告として、例えばアンケート調査を実施した等の成果があることはよいが、そのアンケート結果の内容を載せる必要はないのか。

小野塚教育総務課長

今回は自己評価の結果を示してある。今後、この評価をもとに教育行政評価懇話会を開いて議論してもらおうが、そのときにはアンケート結果等についても資料として提供する。

西田委員長

一般企業などでは外部評価が求められるところだが、その点はどうか。

小野塚教育総務課長

外部評価として懇話会に評価をいただいております、例年どおり行いたい。

小山教育長

例年、7月ごろに3回程度の懇話会を開いて外部の評価委員に資料を提示して外部評価をもらっている。これまでは自己評価も懇話会の直前に作成していたが、それぞれの部署では次年度の計画を立てるときに自己評価を行って計画を立てているはずであり、今年度については予算編成の忙しい中であつたが年度内に自己評価をした。

金子委員

チェックの内容として、例えば4ページには「広報で分かりやすくお知らせすることができなかった」とあるが、どうしてできなかったのかというところまでチェックする必要がある、そうしないと次に繋がらない。推進協議会への参加にしても、参加してどうだったかというところまで書いておかないと今後の課題がつかれない。今後の課題のところでは「わかりやすく周知し」とあるが、どうすればわかりやすくなるのかが課題に具体的に書かれないといけない。このことは、この箇所だけでなく全体にいえることである。

また、行政内部の文書であれば、ですます調ではなく書き言葉にしたほうがわかりやすいのではないかと。

小市委員

大切なのは、どうチェックするかということである。例えば「学ぶ意欲を育む授業づくり」のチェックについて、その良さが書かれているが、これは小学校あるいは中学校の一部から

見たものであり、逆に中学校から見ると、正規の教員は小学校に行き中学校では代わりの講師が教えることになる。学力の保証をどうするのか、講師として優秀な人材が必要であり、そうした課題も明確にしておいたほうがよい。

城下委員

顧客満足度の視点が必要だが、現場はどう評価しているのかをもう少し意識したほうがよいのではないか。そうすることで、現場と教育委員会がかけ離れたところで空回りしなくてすむのではないか。

また、書き方についても、細かくごちゃごちゃ書くのはよくないのだろうが、読み手にとって疑問が残るものである。具体的にどうするのかという結論が書かれていない箇所がないように記載してもらいたい。

西田委員長

生涯スポーツ活動の指導者教育はどうなっているのか。指導者への安全教育やスポーツの技能に関する教育のほかに、指導者としての教育、理念の教育の必要性がある。

小山教育長

スポーツ推進委員の会議の中で研修をやっており、その研修において指導することに対する研修を充実させることがよい。体育協会と連携して一般的な研修はそこでできるだろう。ただし、行政が、さまざまなスポーツのそれぞれの指導者だけを集めての研修というのは難しい。

西田委員長

指導のあり方についての教育、安全教育の必要性を強く認識している。その教育を誰が行うにしても、行政としての予算措置は必要となってくるため検討願いたい。

城下委員

武道やダンスが授業内容に取り入れられるようになるが、こうした授業ではインストラクターなどの教師以外の外部の講師による指導も考えられる。外部の講師は教師とは違うため、指導者としての教育が必要かもしれない。指導者としてのレベルをあげないと生徒たちも混乱してしまうため、指導者に対する教育について検討してほしい。

全委員 了承

(3) 浦里小学校学校運営協議会委員の任命について

資料3により中村学校教育課長説明

全委員 了承

(4) 上田市立小・中学校学校評議員の任期について

中村教育学校課長

前回定例会において、学校評議員の任期を2年から1年に変更したいという提案をしたが継続審議となっており、実際の評議員の意見を聞いてみた。2年がよいという意見としては1年では学校の内容がわからないなどがあり、反対に1年がよいという意見としてはPTAの役員と同じにしたほうがよい、また、多くの方に意見を聞くべきだというものであった。前回の提案は取り下げることとし、これまで同様の任期2年としたい。

また、既に任期が6年、7年という評議員もいるが、小さな学校では人選に苦慮する実情もあるため任期を区切るようなことはせず、校長会を通して各学校にはなるべく多くの評議員に評価してもらうよう働きかけていきたい。

金子委員

より多くの方に評議員になってもらいたい、結局、「これまで同様の任期2年とする」ということか。それで問題解決になるのか。

中村教育学校課長

校長会を通して、評議員を替えてできるだけ多くの意見を聞いていくようお願いしたい。

西田委員長

長く評議員をやっているからなのか、自分たちの職務は何を求められているのかわからずにやっている方もいるようだ。何か工夫が必要ではないか。

中村教育学校課長

選任されても学校に来ない方もいる。評議員に対して、学校評議員の制度とはどういうものであるのか知らせる等、状況を見ながら再検討したい。

小山教育長

学校評議員会の議事録をHPに掲載するなど、当日の会議資料や評議員から出た意見などは簡単に示せるので、評議員にも情報提供していったらどうか。

廣川教育参事

学校評議員には、評議員の会議と同時に常日頃から校長の求めに応じて意見を述べるという任務があるが、会議だけで済ませてしまう学校が多いため見直す必要性を感じている。

また、HPには学校の自己評価を掲載するようになったが、その評価は評議員が行っているため、そのことについても周知していく必要がある。

西田委員長

制度が形骸化してきているという意見もあったが、学校評議員制度がマンネリ化とならないよう努めていってほしい。

全委員 了承

(5) 上田市教育支援プランの見直しについて

資料4により中村教育学校課長説明

小市委員

屋内運動場等の非構造部材の耐震化は是非推し進めてほしい。合わせて、防災教育の徹底もお願いしたい。

また、キャリア教育については、地域とのかかわりが非常に大きい。プランの組み立てとして、まず家庭とのかかわり、次に地域とのかかわりとあり、次にものづくりを通したキャリア教育の推進となるが、プランの内容から「ものづくり」でよいのか。

中村教育学校課長

プラン25の表題を再検討したい。

金子委員

プラン28の「1校1運動」とはどのようなものか。

小山教育長

各学校で1つずつどんな運動をするか、運動の種目と目標をきめて取り組んでいる。子どもたちの体力を上げていくことが目的であり、県も同様な取り組みを勧めている。

西田委員長

プラン14の非構造部材の耐震化については、国の指導等の何かきっかけがあったのか。

小野塚教育総務課長

文科省からも震災時に非構造部材が落下した等の通知を受けている。今後、3年計画で取

り組んでいく。

西田委員長

建物だけでなく非構造部材となると範囲が広く予算措置等も大変ではないか。

小野塚教育総務課長

具体的には、屋内運動場が避難場所になることが多いので、屋内運動場をまず整備していきたいと考えている。最近の新しい屋内運動場は、天井の構造部材がないものが多く、照明器具等もストッパーがついているため、古い屋内運動場が対象となる。

城下委員

新しく体育館をつくった場合、防災の備蓄庫等はどう整備しているか。

小野塚教育総務課長

学校の体育館に必ず備蓄庫を設けるものではなく、市の防災担当課がどの地域にどのくらいのものが必要かを計画し、その調整結果をもとに備蓄庫を整備している。

全委員 了承

<報告事項>

(1) 平成23年度寄附一覧

資料5により中村教育学校課長説明

西田委員長

寄附者の中には顔見知りもお礼も言わなければならないが、報告は1年間まとめてではなくその都度できないか。

中村学校教育課長

毎月あるいは四半期ごと等、状況を見て報告したい。

全委員 了承

(2) ネットや携帯の利用について

資料6により浅野生涯学習課長説明

金子委員

学校現場での指導はどうか。

中村学校教育課長

この資料は、通常は4月に入ってから各家庭に配布していたものだが、3月に携帯を買う子どもが多いため早めに配布した。各学校では、市の出前講座や情報教育担当の指導主事を招いて指導を受けている。また、PTAで研修を行なっている例もある。

城下委員

家庭の責任だけでなく先生方にも勉強してほしい。現実には相当進んでおり、子どもたちは学校に持ってこなくても携帯電話等を使っている。

中村学校教育課長

教員に対しては、上田市の情報教育研究協議会において各学校1名の先生が集まり話し合いを持つほか、夏休みに研修を行っている。

全委員 了承

(3) 公民館条例の一部改正内容について

資料7により綿内川西公民館長説明

全委員 了承

(4) 交流・文化施設CG映像について

DVD映像をテレビに映して説明(文化振興課長)

城下委員

誰がつくったものか。市民に見せるものか。

土屋文化振興課長

業者がつくったものである。自治連総会等でも見せているが、とりあえずは内部的に状況を理解するためのものである。

金子委員

施設の運営面や人事面での計画はどうなっているか。

土屋文化振興課長

現在、人事面については市長部局で検討している。運営面では、運営管理計画が提出されており、運営協議会の中に専門委員会がありどう使っていくかの検討されており、それをもとに進めているところである。

全委員 了承

(5) シリーズ文化講演会実施報告

資料9により土屋文化振興課長説明

全委員 了承

(6) 第11回うえだ子ども文化祭実施報告

資料10により土屋文化振興課長説明

全委員 了承

(7) 平成23年度スポーツ関係市長表敬訪問者報告〔全国大会出場者等〕

資料11により佐藤スポーツ推進課長説明

全委員 了承

(8) 行事共催等申請状況について

資料12により各事務局課長から説明

全委員 了承

<その他>

平成24年3月退職の職員からあいさつ（教育次長ほか）